

幼稚園

ひとりひとりが輝く保育をめざして

附属幼稚園・副園長 上野 由利子

他園の先生方との学び合い

附属幼稚園では、「ひとりひとりが輝く保育をめざして」というテーマを掲げて、11月17日(土)に公開保育研究会を開催しました。土曜日とあつて、園内研修として全教員で参加された園もあり、近畿圏を中心に280名の参加を得ました。

幼稚園は、様々な子どもたちがともに学ぶ最初の学校です。中には、集団の中に入りにくい子どもや、友達とコミュニケーションをとることが苦手な子どもも



おはようたいそう



どろだんご

身体を目覚めさせる体操

附属幼稚園は、朝の体操で始まり、子ども自身が自ら遊びを見つけ、積極的に活動するためには、心も体も十分に目覚めることが大切であると考えています。全園児が登園する頃を見計らって、身体を思い切り動かす時間を設けています。お腹から大きな声を出すことも身体を活性化すると考え、声をかけ合う動きを組み込んでいます。

自然環境を生かして

本園には豊かな森があり、自然環境に恵まれています。秋は特に、本園の良さを生かした保育が展開されます。三歳児は大きなクヌギの下でおやつを食べたり、絵本を読んでもらったりしました。四歳児は、木の枝や赤い木の実を使った壁飾りや、ジュズダマの腕輪を作って遊びました。五歳児は、自

然環境センター教授でもある園長先生の指導を受けながら、マテバシイやシイの実をホットプレートで焼いて食べました。「こうばしくておいしい」という子どもたちの発言に、周りで参観しておられた先生方も思わず手を伸ばし、「ドングリってこんなに美味しい

小学校

みんなの学校

―教えと学びの公共性を求めて―

教育研究は36回目?

附属小学校の教育研究会が、昨年11月17日に開催されました。毎年行うことを基本としており、今回で36回目になります。「それでは、どうして36回目戦後60数年たっているのに、回数が少ないのではないのか?」と思われることでしょう。附属小学校では、創立(118年前)当初より、教育研究会をずっと大事にしながらか開催しています。戦後も教育研究会を始めたのですが、1965年にそれまでの附属小学校の教育のあり方を大きく見直して、教育研究会に臨もうということになりました。そこで、その年の教育研究会を、新しい研究会という意味で第1回としたそうです。

研究テーマの意味

今年度の教育研究会のテーマは、『みんなの学校―教えと学びの公共性を求めて―』でした。少し難しいかも知れませんが、今学校教育は、学力の問題やいじめ、不登校など、いろいろな課題を抱えています。その中で大切なのは、学校教育は上から押し付けられた形で進めていくのではなく、子どもと教職員はもちろんのこと、保護者や地域の住民も含めみんなで創っていくということだと思っています。「学校の課題はみんなで力を合わせて解決していくものだ」という考えが『みんなの学校』というテーマの意味あいです。『教えと学びの公共性』には、「授業を中心とした教育

んですね」と感動しきりでした。保育室に展示している子どもたちの作品を前に、熱心にメモをとる先生の姿も見られました。附属幼稚園の保育実践を知っていたら、多くの先生方と交流できた一日となりました。

附属小学校・副校長 坂下 伸一

実践についても、子どもと教員とで創り出していくものであり、授業内容もすべての子どもが学ばなければならぬものにする」という主張が込められています。

教育研究会の様子

当日は、公立学校の教員や大学の教員、学生など300人近くの人たちが全国から集まってくれました。午前中は「公開授業・研究授業と討議」、午後は「学力を考える分科会」ということで、低・中・高学年と特別支援学級の分科会で、本校の報告と討議が熱心に行われました。今年は「通常学級にいる特別なニーズを持つ子どもの教育」の分科会も設定しました。予想以上に多くの方に集まっていたが、この教育の関心の高さを感じました。

来年度も11月に教育研究会を開催する予定です。ぜひ、参加してください。



中学校

ESDの理念の実現に向けて

附属中学校研究推進部・教諭

竹村 景生

11月2日（金）、約200人の参加を得て本校の研究会が行われました。本年度の研究テーマは「ESDの理念にもと

づく学校づくり」ESDを視野に入れた授業研究（第2年次）です。昨年度創立60周年を記念して記念誌を作成しました。その記念誌作成の作業の中から、各教科ならびに本校の教育活動全般の歴史的な経過をつぶさに振り返ることを通して、私たちは教科を主体とした先輩教員たちの実践や、生徒たちと紡いできた特別活動や総合の積み上げ（文集など）の歴史があつて、今回のESDに続いていく気づきを促し、テーマとする確信を得たのだと思います。

ところで、今回の研究会の成果を五点到りまとめました。

①研究会テーマを『未来の地球市民を育てる教育』と設定し、そのテーマの教育現場への具現化として、各教科が提案型の公開授業ならびに研究報告を行うことができた。（全校ならびに全教科がESDをテーマとする義務教育学校は、現在国内で本校だけである。）

②ESDのテーマが縁で、奈良市教育委員会から本研究会への呼びかけが行われ、多数の参加が得られた。

ESDに取り組もうとする奈良市との地域連携が今後も継続されていく契機

となり、地域教育への貢献の一端を担うことができた。

③ESDというテーマが、教職員のみならず、地域で活動されているNPO関係者や、NPOに参加されていたり関心を持つておられる、本校PTA関係者や学生といった、幅広い層からの参加を得られた。

④中教審が、「総合的な学習」の時間を削減し、教科の時間を増やす方針を打ち出したが、教科から発想しつながつていく私たちのESDの実践は、この間の「総合」の蓄積を壮大なムダとして単純に「学力」論で切り捨てるのではなく、その発展的な展望をもって、増やされた教科時間数に活かしていきけるよう、戦略性をもって実践現場に提案できる内容である。

⑤今回の集録原稿のほとんどが、各研究会や学会等で発表されたものである。質的な高さとともに、ESDへの啓発と広報、また今後の本校教育研究への関心や要求といった、相互交流的な対話をつくり出していく実践研究へと、附属中学校は踏み出したと言える。

午後の講演会は、永田佳之氏（聖心女子大学）による「ESDの理念による学校づくり」の講演が行われ、質疑応答も盛り上がり、会場参加者は有意義

な時間を共有することができました。

研究会の打ち合わせや共同研究などで、大学教員との連携ができてきた中、今後の課題としては学生が参加しやすいように、実習内容の一講座として附属の研究会が位置づけられることを、早急に検討していただけるよう願っています。

当日は柳澤学長をはじめ、分科会での指導や助言など、多数の大学教員の協力・参加をいただいたことを、この場を借りてお礼申し上げます。また、研究会の運営に学生諸君が活躍してくれたことも、この場を借りて報告しておきます。

なお、研究集録を希望される方は、
研推部・竹村 (takemura@nara-edu.ac.jp) まじりに報ってください。

